

雲鷹丸 第10次実習航海報告

概要

本船は7月中旬東京を發し、北海道北見沖に於ける夏季大鱈・蟹の漁場探見、刺網・延縄実習並に海洋基本調査に従事し、9月上旬千島列島北部方面に至りて鱈釣実習並に米國式開鱈乾燥試験を行ひ、10月中旬帰京すべき命令に基き、6月下旬より諸般準備に着手し、7月1日石川島船渠に上渠して船底塗上げ、船体及機関定期検査を遂げ、7月7日再び品川沖に出江し、用水・糧食・船用品具等諸般の整頓に従事したり。北海道に於ける海洋基本調査に関し、農商務(省)囑託員浅野彦太郎氏室蘭にて乗船し、小樽寄港の際退船すべく、米國式開鱈乾燥試験に就ては、小樽港より囑託員田中仁吉氏乗船すべき豫命を受けたり。

漁業実習の爲め、鎌田教官指導の下に左(下)記生徒21名、7月9日乗船したり。

莊 得一	沼野 吉	梅本 儀助	桐本 富次	原田 健児
徳光 外治	服部愛之助	佐々木孝造	岸田 十雄	邨井 捨吉
林 準二	本間久四郎	重田 瑞穂	前田 英二	谷口 武三
飯沼 寿	野崎 民平	前田 信一	大村 道一	山田 勝衛
中村 吉治				

(注：漁撈科第17回生)

詳細は左(下)に摘要日誌、航跡略図、衛生状態報告、正午所在表を上げて高覽に供し、特別乗組職員の負担したる調査及試験に関しては各自其報告を提出すべきを以て本報告に省きたり。

摘要日誌

大正2年7月13日 午前8時頃所長、黒田・小瀬両技師を伴ひ来船せられ、告別訓示を加へらる。午前10時品川抜錨、午後3時10分館山に入港す。

7月14日 漁具搭載及生徒体格検査を行ふ。

7月15日 午前8時出港し、11時半布良沖に至りて機関を停止して帆走、室蘭に向ふ。

7月21日 室蘭寄港予定期日既に切迫したるに、連日微風又は逆風にして、前途猶遠きを以て、午前9時山田沖より汽走に変じ、呎尺を弁ぜざる濃霧を侵して進航す。

7月22日 午後3時室蘭に到着す。

7月23-24日 降雨の爲め、石炭搭載を得ず。鎌田教官生徒一同を指導し漁業調査を行ふ。

7月25日 海洋調査担当員浅野囑託乗船す。此日、石炭及用水を搭載す。

7月26日 午前3時40分室蘭抜錨、根室に向ふ。8時30分適風を得て帆走に変ず。航途に於て時々海洋調査を行ふ。

7月27日 午後3時より無風濃霧に遭ひ、汽走に変じて徐航す。

7月28日 午後3時半濃霧稍薄らぎ、陸影を認め得たるを以て、全速力培瑤水道を通過し、午後7時根室に入港す。根室碇泊中鎌田教官は生徒を引率して水産組合に就て調査に従事し、小官及片岡一等運転士は根室区裁判所より召喚せられ、トロール汽船祝丸違犯行為事件の証人として審問せられたり。而して此地碇泊中は連日北風に

- して天候不良なりし為め、予定日に出港し得ざるに至りたり。
- 7月30日 明治天皇陛下御一周年祭に付、一同謹慎休業せしむ。
- 7月31日 午後4時抜錨し、国後島の東側に至り、海洋調査、蟹刺網実習を行ふ。
- 8月 1日 野付水道より羅臼沖辺調査及大鮭漁実習に従事す。是より漸次北航し、知床岬を回りに網走沖合、紋別沖合等に至り、昼間は大鮭漁並に海洋調査を行ひ、夜間は蟹刺網、ビームトロール実習試験を行ふ。
- 8月 8日 汽罐水補充の為め大泊に寄港し、同夜出港、亜庭湾上数点、西野登呂岬付近、宗谷海峡等、海洋調査に従事し、漸次南進す。
- 8月11日 午前2時礼文海峡調査中荒天となりしを以て、午前5時利尻島錨泊に避難寄港す。
- 8月12日 午前5時半天候快復したるを以て錨泊を抜錨し、利尻海峡以南数点調査を行ひ、天塩川沖合に大鮭漁を試みて所獲なく、同夜留萌沖合にビームトロールを試用し、
- 8月13日 午前6時小樽に入港す。
- 8月14日 浅野囑託員退船し、生徒佐藤成美乗船す。此日鎌田教官生徒一同を引率し、札幌見学に赴く。
- 8月15日 鎌田教官生徒一同帰船す。
- 8月16日 午前田中仁吉氏乗船、午後炭水の搭載並に船体手入を終り、出帆準備成る。
- 8月17日 午前5時12分抜錨し、港外より帆走す。
- 8月18日 利尻(島)を過ぎ、点火汽走し、宗谷海峡を経過して帆走に変じ、
- 8月25日まで諸風に対し順逆航行す。
- 8月26日 (北千島の)阿頼度島沖合より汽走し、幌筵海峡の沖に至りて仮泊試漁したるも、暫時にして強風襲来の為停止して、再び進航、午後0時54分占守島片岡湾に投錨す。
- 8月27日 早朝幌筵島村上湾に転錨す。此日鱈乾燥試験に付、遠洋漁業会社及神坂氏に交渉し、何れも承諾を得たるも、干場並に製品の都合上神坂彦右衛門の漁場に於て乾燥試験をなす事に決定し、田中氏及重田、沼野両生徒を上陸せしめ、午後5時抜錨出漁す。
- 8月28日 朝オゼルナイヤ沖合に投錨従漁し900尾を獲たるも、午後強風の為抜錨、更に北進す。
- 8月29日 非常なる暴風浪に遭遇し、ドーリー用櫂5本及ボートコンパス1個流出す。
- 8月30日 キシカ沖合に至り、
- 9月 3日迄経過し、合計約7,300尾を獲、用塩欠乏に至りて終業す。
- 9月 4日 午前9時ビームトロールを以て約1時間程試漁したるに、蟹(クラバ)83、鰈約3屯の収獲あり。以て其豊漁なるを明にし得たるにより、停止して占守(島)に向け帆走帰航の途に就く。
- 9月 5日 夜半より暴風浪の襲来に遇ひ、漂泊す。
- 9月 7日 午後無風となりしを以て、午後11時より汽走す。
- 9月 8日 午後6時幌筵島村上湾に投錨す。
- 9月 9日より用水端艇搭載ヤード上方、並に田中氏漁場製品運搬等出港準備をなす。

- 9月13日 諸準備整頓したるを以て、正午出港し、午後8時幌筵島東側に至りて帆走に
 変じ、千島列島の東方を南航す。航途得撫(島)及択捉島沖を通過の際、2回暴風に遭
 遇したり。
- 9月24日 夕景襟裳岬の東方に至りて不定の微風となり、天候不定の兆あるを以て汽走に
 変ず。
- 9月25日 午後1時半室蘭に入港す。
- 9月26日 石炭を搭載す。
- 9月27日 天候険悪となり、出港を得ず。
- 9月29日 天候快復したるを以て、午前8時半抜錨し、午後6時半函館に入港す。当地滞在
 中、生徒に陸上見学を行はしむ。
- 10月 4日 午後0時20分抜錨汽走、津軽海峡を經過し、午後6時45分帆走に變ず。
- 10月 5日 午前3時頃より無風となりしを以て、午前7時半より汽走し、正午鍬ヶ崎に寄港
 し、適風を待つ。鍬ヶ崎泊中に宮古水産学校及港内大謀網見学を行はしむ。
- 10月 8日 午前6時抜錨したるも逆風にして浪濤高きを以て、午前10時半釜石に入港し、
 生徒をして製鉄所見学をなさしむ。
- 10月 9日 午前6時釜石抜錨したるも尚好風なく、且残浪高大なるを以て、午後6時鮎川に
 寄港し、生徒をして当地の捕鯨事業場を見学せしむ。
- 10月11日 午前11時帆走抜錨せしに、港外より逆風となりしを以て、萩ノ浜に寄港し、好
 風を待つ。当港泊中、生徒をして水晶形器械網を見学せしむ。
- 10月14日 予定期日漸く切迫せしを以て、午前6時抜錨汽走す。
- 10月15日 午前1時半銚子沖より適風を得て帆走に變じ、午前9時半野島(崎)沖より汽走、
 午後3時半館山に入港す。
- 10月16日 漁具の陸揚をなす。
- 10月17日 開鱈4,100尾を陸揚す。
- 10月18日 午前7時館山抜錨し、午後1時品川に帰着す。

及 登
 右(上)為報告也

大正2年10月20日

雲鷹丸船長 浅利孝爾

水産講習所長 下 啓助殿